

学校编码：10384

分类号_____密级_____

学号：200304054

UDC_____

厦 門 大 学

硕 士 学 位 论 文

ノンフィクションの翻訳手法についての研究
——『日中報道回想の三十五年』の中国語版を中心に

关于纪实文学翻译手法的研究
——以《日中采访风云录》的中译本为例

刘 岫

指导教师姓名：纪太平 教授

专 业 名 称：日语语言文学

论文提交日期：2006 年 5 月

论文答辩时间： 年 月

学位授予日期： 年 月

答辩委员会主席：_____

评 阅 人：_____

200 年 月

厦门大学学位论文原创性声明

兹呈交的学位论文，是本人在导师指导下独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考的其他个人或集体的研究成果，均在文中以明确方式表明。本人依法享有和承担由此论文而产生的权利和责任。

声明人（签名）：

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人完全了解厦门大学有关保留、使用学位论文的规定。厦门大学有权保留并向国家主管部门或其指定机构送交论文的纸质版和电子版，有权将学位论文用于非赢利目的的少量复制并允许论文进入学校图书馆被查阅，有权将学位论文的内容编入有关数据库进行检索，有权将学位论文的标题和摘要汇编出版。保密的学位论文在解密后适用本规定。

本学位论文属于

1、保密（☐），在 年解密后适用本授权书。

2、不保密（☐）

（请在以上相应括号内打“√”）

作者签名：

日期： 年 月 日

导师签名：

日期： 年 月 日

厦门大学博硕士论文摘要库

レジュメ

事実に基づくノンフィクションという文学ジャンルは現実には密着している。ノンフィクションの作品は現在もなお世界各国で増えつづけているが、その翻訳について系統的な研究やその面の資料はほとんどみつからない。『日中報道回想の三十五年』という本は、過去 60 年余りの著者自身のジャーナリスト人生の中で起こったことを、自らのスタイルで著したもので、日本のノンフィクションとして注目されている。中国語版の『三十五年的新闻追踪——一个日本记者眼中的中国』を中心にして、ノンフィクションの翻訳手法を論じることにする。

はじめは序論で、原作と訳本を簡単に紹介し、この本を選ぶ理由を述べた。

次に本論に入る。第一章は翻訳手法に対する先行研究について回顧である。翻訳手法を追究する前に、翻訳動機と目的をはっきりさせ、翻訳者はなぜ翻訳をするのかという翻訳の動機と目的について触れたい。まずは、劣等意識が翻訳の原動力となるのではないだろうか。次に、異質性の存在も翻訳の動機だと考えられる。そもそも翻訳とは、外国の進んだ考え方や技術などを母語に置き換えて取り入れるために行われるものである。翻訳は、二つの段階から成っているとされている。原典テキストを「解釈」する（意味をとる）第一段階、次にその意味等価物を翻訳テキストとして「表現」する第二段階である。この二段階は翻訳手法の用いどころである。翻訳者の主体性を積極的に、十分に発揮し、原作の読者の心に作り出せる効果と同じものを、翻訳の読者の心に作りだす、ということが翻訳の理想であろう。しかし、「表現」の場合は、文法的にも語彙の上でも非常に多くの調整を強いられ、言語構造の違いのために、「原作の辞句を転倒変換」せざるを得ない現実がある。それについて、「翻訳不可能」という論争もある。それで、翻訳の理想を実現させるために、翻訳者として不可欠な資質が三つある。まずは、責任感と「徳操」。次に予備知識と語学力。それから、経験を積むことと言葉に対する感覚を養うこと。翻訳技術手法の面については、「翻訳調」と翻訳者の自由度にふれている。

第二章はルポルタージュと報告文学そしてノンフィクションの定義を明確にし、原著のジャンルを明らかにする。前両者は大体同じ意味をしている。報告文学は狭くはルポルタージュの訳語として、広くは中国文学独特の概念として、文芸通迅、速写、特写などの総称として用いられており、その特質として、速報性、真実性ととも描写の文芸性が要求される。現在では、報告文学は中国文学の範囲で通じる言い方となっているが、日本文学の歴史では、ある時期この言葉を使う作家がいた。日本での報告文学は、小説以前の現実状況の報告文学としての意味で、著者と読者との一般的関心の前におかれたのは、プロレタリア文学のもつ社会性の本質からであった。今日、ほとんどの報告文学のような作品はルポルタージュに包括されている。ノンフィクションの場合は、字面どおりにとれば、フィクション、つまり虚構を駆使する文学以外を総称するジャンルということになる。従って、ルポルタージュと報告文学の二種類ジャンルは、ノンフィクションの中に含まれる。『世界百科大事典』と『世界文学大事典』には、ルポルタージュとノンフィクションの定義に挙げられる例は、さして変らないところもある。最後に『日中報道回想の三十五年』は著者の手記であり、すべては事実だが、書き方は散文形式で、ある程度では小説のような雰囲気もあふれている。厳密に区別すれば、「ノンフィクション」に一番近いと言える。原著者にこの問題を聞いたことがあるが、吉田実氏も「ノンフィクション」をこの本のジャンルだと認めている。

第三章は『日中報道回想の三十五年』から見るノンフィクションの特徴および翻訳の手法である。ノンフィクションの特徴を以下のようにまとめると：まずは虚構ではないこと。原文の真実性と対応し、翻訳は原文に忠実であること。忠実性を重視するうえに、読者に分かりやすいことに注目すべきである。次に事実または史実を反映させることを目的としているため、翻訳の切迫性と速報性が必要である。そしてさらに、ヒューマニズムの色彩を帯びるため、政治的ヒューマニズム観点を「精神」と認めるべきである。ノンフィクションの著者はみんな熱い思いを抱いているゆえ、翻訳者はその感情表出に工夫するのが必要である。最後にノンフィクションは描写の文芸性も強調したい。原著者の優れている文章力に相当する翻訳の語学力も無視すべきではないこと。この訳文

の中で、翻訳者は伝統的で中国人にとって一番落ち着きやすい成語を使いこなせる。

第四章はノンフィクション翻訳の中で「翻訳調」の問題にふれている。まずは日本において「翻訳調」の由来と発展を述べ、『日中報道回想の三十五年』の例を挙げながら、翻訳の際、避けがたい「翻訳調」の危険を分析する。

最後にノンフィクション翻訳の要領をまとめ、結論を打ち出す。ノンフィクションの特質から、忠実さを永遠に追求しなければいけない。それに基づいて、分かりやすい訳を求めるべきである。また、ノンフィクションでは切迫性が強調されるので、翻訳者としては、敏感な目と感触を備えることが一番重要である。ノンフィクションの中で、著者の政治的ヒューマニズム観点は「精神」であるので、翻訳の際、この「精神」を抽出し、昇華させる訳本こそが至高のものと言えるのではなかろうか。

キーワード：ノンフィクション；特徴；翻訳の手法

摘 要

非虚构文学，又叫纪实文学。这种文学题材基于事实，和现实社会有着紧密的联系。纪实文学作品虽然在世界范围内有大幅度增长的趋势，但关于纪实文学的翻译方面，却相对比较缺乏系统的研究和资料。《日中采访风云录——一位日本老记者三十五年的回忆》是著者追忆自己 60 多年的记者生涯，从中选出纪实片断，用自己的说话方式兼记述手法记录下来的一本回忆录，它作为日本的纪实文学引起广泛的关注。笔者拟以此书的中译本为例，来研究纪实文学的特征及其翻译手法的问题。

序论部分主要是对原作和中译本进行简单的介绍，并阐述选择这本原作的理由。

在本论中，第一章是回顾对翻译手法问题的先行研究。在对翻译手法的探讨之前，首先是必须弄清翻译的动机和目的。劣等意识应该是翻译的首要原动力。其次，异质性的存在被认为是翻译的动机。翻译原本就是为了吸取国外的先进思想和技术而用母语进行套换吸收的行为。翻译由两个阶段构成。分别是取原文本之意的“解释”阶段和创造与原文本等同意思的翻译文本的“表现”阶段。这两个阶段均为在翻译手法上值得斟酌的阶段。积极充分地发挥翻译者的积极性，把原作带给读者的心里震撼效果分厘不少地呈现给译作的读者，这应该是翻译的理想境地。但是，在“表现”这个阶段，无论是语法还是词汇方面都要被迫作众多调整，并且由于语言结构的不同，也就不得不对原作的词句进行颠倒变换。因而对此种现象产生了“翻译不可能”的争论。为了实现翻译的理想，作为翻译者必须具备三点资质。首先是责任感和“德操”，然后是知识储备和语言功底，最后是经验的积累和语感的培养问题。在翻译技术和手法方面，文中也涉及到了“翻译调”和翻译者的自由发挥度的问题。

第二章中分析了现地报道文学，报告文学和纪实文学的定义，明确了原作的体裁。前两者意思大体相同，报告文学从狭义上讲是现地报道文学的翻译语，广义上讲是中国的报告文学的独特概念，是文艺通讯，速写，特写的总称。其特质

是即时性，真实性以及描写的文艺性。当今，报告文学已被公认为中国文学范围内的一种文学形式，在日本历史的某一时期，也曾有作家采用此文学形式。日本那时的报告文学是对小说之前的现实状况的报告，如今，所有的报告文学都囊括在了现地报道文学之内了。纪实文学，即除存在虚构情节的之外的文学形式的总称。也即是说，现地报道文学，报告文学这两类都属于纪实文学。《日中采访风云录》是作者的手记，所记述的均为事实，叙述方式有散文的特征，存在类似小说的氛围。如果按定义来区分，那么这应属于纪实文学。笔者关于此著作的体裁问题曾请教过原作者吉田实先生，他也认同此书应属于纪实文学体裁。

第三章是从《日中采访风云录》来研究纪实文学的特征以及其相应的翻译手法问题。纪实文学的特征总结为以下几点：首先是没有虚构，与原文的真实性相对应的是译文要对原文的忠实，并且在重视忠实性的同时，也应该考虑到读者，即译文的通顺易懂问题。其次，由于纪实文学都是以反映事实或史实为目的的，因而翻译的迫切性和即时性就尤为重要。另外，纪实文学均或多或少的带有人道主义色彩，因此其政治人道主义观点应被视为其“精神所在”，翻译的时候应该加以体现。第四点是纪实文学多寄托作者强烈的思想感情，翻译时在感情表达方面有必要下大功夫。最后一点是，纪实文学也有一定的文艺性特征，因此为了做到与原作优秀程度相当，翻译者的语言功底不可忽略。此译作纯熟地运用中国读者喜闻乐见的成语，提升了文章的渲染力。

第四章涉及到纪实文学翻译中的“翻译调”问题。首先介绍在日本“翻译调”问题的由来和发展。然后结合《日中采访回忆录》的具体例子，引出有日语译为汉语时出现的“翻译调”的倾向问题。

最后总结纪实文学翻译的要领，得出结论。纪实文学的特质来看，必须永远追求忠实性。并且要做到译文的通顺易懂。因纪实文学强调迫切性，所以翻译者具备敏锐的眼睛和感觉非常重要。纪实文学中，作者的政治人道主义观点是文章的“精神所在”，在翻译的时候能把这个“神”给提炼出来并加以升华的译文将会是纪实文学翻译的最高境界。

关键词：纪实文学；特征；翻译手法

目次

序論	1
1. 原作と訳本について	1
2. テーマを選ぶについて	2
本論	3
第一章 翻訳手法に対する先行研究	3
1. 翻訳の動機	3
2. 翻訳の段階	4
3. 翻訳の実現	5
①、責任感と「徳操」	5
②、予備知識と語学力	6
③、経験を積むことと言葉に対する感覚を養うこと	6
4. 技術手法の面	7
①、「翻訳調」について	8
②、「自由度」の程度	8
第二章 ルポルタージュと報告文学とノンフィクション	10
1. ルポルタージュの範囲	10
2. 中国における報告文学の研究について	12
3. 日本におけるノンフィクションの研究について	14
第三章 ノンフィクションの特徴および翻訳の手法	18

1. 虚構ではないこと——原文の真実性と翻訳の忠実性（読者の分かりやすさに配慮すること）	18
2. 事実または史実を反映する——翻訳の切迫性と速報性	21
3. ヒューマニズムの色彩を帯びる——政治的ヒューマニズムの観点を「精神」と認めるべき	23
4. 著者は熱い思いを抱く——感情表出に工夫する必要	24
5. 描写の文芸性——中国の成語や熟語を使いこなすこと	27
 第四章 ノンフィクション翻訳の中の「翻訳調」	32
1. 日本における「翻訳調」の由来と発展	32
2. 日本語から中国語に「翻訳調」の危険	34
 結論	37
 参考文献	39
謝辞	41

目 录

序论	1
1. 关于原作和译作	1
2. 选择此作品及译作的理由	2
本论	3
第一章 对翻译手法问题的先行研究	3
1. 翻译的动机和目的	3
2. 翻译过程	4
3. 翻译的实现	5
①. 责任感和“德操”	5
②. 知识储备和语言能力	6
③. 经验的积累和语感的培养	6
4. 技术手法层面	7
①. 关于“翻译调”的不同理解	8
②. 对自由度的把握	8
第二章 现地报道文学、报告文学、纪实文学	10
1. 现地报道文学的范围	10
2. 关于中国报告文学的研究	12
3. 关于日本纪实文学的研究	14

第三章 纪实文学的特征及其翻译手法.....	18
1. 非虚构——原文的真实性和翻译的忠实性.....	18
2. 反映事实和史实——翻译的迫切性和即时性.....	21
3. 带有人道主义色彩——政治人道主义的观点应被认为是文章的“精神所在”	23
4. 原作饱含强烈的思想感情——译作在感情表达方面有必要下功夫.....	24
5. 文艺性描写——翻译中纯熟运用中国的成语.....	26
第四章 纪实文学翻译中的“翻译调”问题.....	32
1. 在日本“翻译调”问题的由来和发展.....	32
2. 日汉中出现的“翻译调”倾向.....	34
结论.....	36
参考文献.....	39
致谢.....	41

厦门大学博硕士论文摘要库

序論

1. 原作と訳本について

『日中報道回想の三十五年』という本は、日本の朝日新聞社の古参記者吉田実氏^①が1998年5月に出版した「備忘録」である。過去60年以上にわたり、中国人社会を中心にアジア各地の人々との関わりを持った一人の日本人としての「覚書」でもある。つまり、この本は著者が身をもって自分の見たこと、聞いたことそして感じたことを著者自らのスタイルで著した真実の物語で、日本のノンフィクションとして注目されている。

著者は自分の「生まれ育ち」から書き始め、歩いてきた今までの人生の道を写実の手法で書いた。著者は少年時代の十一年間を当時日本の植民地であった台湾で過ごした。この「原体験」が大きな機縁となって、戦後の学生時代は、中国語と国際関係論（特にアジアの地域関係学）を学んだ。三十五年間にわたる新聞記者時代には、その大半を中国問題、日中関係、アジア問題の取材活動に奔走した。その後も「朝日中国文化学院」の学院長として八年間、日中関係を中心に、アジア・太平洋地域の動きを見つめてきた。この間、数多くの人々と出会い、さまざまな重要な場面や事件に遭遇してきた。本書は、その中で実際に体験し、感得してきたことがらを主体に、時の動きにしたがってしたためた手記でもある。その渦中であって、いつも追い求めてきたテーマ。それは日中両民族はもちろん、国家や民族は異なっても、この地上に生きる人間同士が、どうすれば自他共に生きる道を見出していけるか、ということであった。

この本は朱新建氏^②と王武雲氏^③に訳された。中国語版の書名は『三十五年の新闻追踪——一个日本记者眼中的中国』である。

^①吉田 実（よしだ まこと）1931年生まれ。東京外語大学卒業。56年朝日新聞社入社。シンガポール支局長、北京支局長、香港支局長、アジア総局長等を歴任。一貫としてアジア報道に関わる。日中国交回復当時、北京支局長として活躍。朝日新聞社退社後、98年3月末まで朝日中国文化学院学院長。著書に、「現代の中国」等がある。

^②朱新建（しゅ しんけん）1955年生まれ。中国アモイ大学日本語科卒業。日本名古屋大学文学部日本言語文化研究科博士コース修了。今愛知学院大学外国人教師として勤めている。

^③王武雲（おう ぶうん）1955年生まれ。中国杭州大学英語科卒業。日本名古屋大学国際開発研究科国際協力の博士学位を取った。今愛知大学外国人教師である。

中国語版の翻訳者兩人ともこの本を翻訳する前には、原作者の吉田氏とは全く一面識もなかった。数年前、本屋でこの本を読み終えた後、「中国の同胞たち特に若い学生たちにぜひ読ませたい」という気持ちを持って、作者に真正面から率直に申し出た。翻訳原稿に目を通した作者の評価を引用させていたきたい。「微に入り細にいり、実によく行き届いたその表現力には、頭の下がる思いであった。精魂を込めた翻訳のご苦勞に、衷心より感謝している。」

この言葉に著者は翻訳者の仕上げた翻訳作品に肯定的な態度を示していると思える。本文はこの翻訳作品を分析しながら、ノンフィクションの翻訳手法を考えてみようと思う。

2. テキストとして選ぶ理由

まず、テキストの新鮮さを指摘したい。今までノンフィクションの作品は日増しに増えている傾向があるが、ノンフィクションの翻訳を論じる本や資料はほとんどない。次は、内容に興味を引かれている。日本語版原著の表紙に書かれているように「この本の中に誰も書かなかった日本と中国の歴史的な秘話がある」「時代と人間の貴重な証言でもある」。中日国交正常化以降現在に至る状況を結びつけ、中日関係に理解を深めながら研究を続けていきたい。因みに、著者と直接面談したこともある。それを通してこの本の内容をより一層理解することができるようになった。興味を持っている原作と訳本に対して、ノンフィクションの翻訳の視点から、翻訳者の手法を追究したい。

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕士论文摘要库